

ULT通信

あると

2018. 10. 10号 / vol. 81 発行 / ULT 図書館司書

いよいよ秋到来！読書・スポーツ・芸術…
何をするにしても丁度良い爽やかな季節
です。自分なりの秋の楽しみ方を見つけて
みませんか？ULTはもちろん読書の秋！

ULTで読める！映像化作品特集

2018年

映画化



『コーヒーが冷めないうちに』
川口俊和
サンマーク出版



『ピプリア古書堂の事件手帖』
三上延
KADOKAWA



『スマホを落としただけなのに』
志駕晃
宝島社



『走れ！校バスケット部』
松崎洋
彩雲出版



『続・終物語』
西尾維新
講談社



『日は好日』
森下典子
新潮社



『ここは退屈屋に來て』
山内マリコ
幻冬舎



『旅猫リポート』
有川浩
講談社



『こんな夜更けにバナナかよ』
渡辺一史
文藝春秋



『赤毛のアン』
モンゴメリ
新潮社

関連作品公開



← 『クマのプーさん』
A.A. ミルン
岩波書店

『クリスマス・キャロル』→
ディケンズ
岩波書店



← 『この世界の片隅に』
この史代
双葉社

『風が強く吹いている』→
三浦しをん
新潮社



ULT NEWS

●サマーアートキャンプ写生画展開催中！

アートコースの生徒たちの作品が、ULTの階段を飾っています。
階段をのぼりながら素敵な風景画を楽しもう！展示期間は11/29まで。



●ULT 読書月間特別企画 ULT 百選読書マラソン座談会！

今回の座談会は特別バージョン。駅伝小説の名作『風が強く吹いている』（三浦しをん）を読んで、作品の魅力を語り尽くそう！貸出用の本もたくさん用意してあります。参加希望者はカウンターへ。

新着案内

9月の新着は約90点です。一部抜粋で紹介します。

↓新着の小説。手軽に読めるシリーズから読み応え抜群の海外ミステリーまで、読めばハマる！



タイトル	著者	請求記号
屍人荘の殺人	今村昌弘	913.6-イマ
ホーンテッド・キャンパス 2~4	榎木理宇	913.6-クシ
宵物語	西尾維新	913.6-ニシ
むすびつき	島中恵	913.6-ハタ
5分後に意外な結末 1~4		913.6-コフ
オリジン 上・下	ダン・ブラウン	939.37-Br

↓書店でもよく見かける話題の新刊。SNS 疲れしている人には『多分キイツ、〜』をお勧めします。

タイトル	著者	請求記号
多分キイツ、今ごろパフェとか食ってるよ。	Jam	159-シヤ
エリア別だから流れがつながる世界史	かみゆ歴史編集部	209-イワ
テーマ別だから理解が深まる日本史	かみゆ歴史編集部	210.1-ヤマ
クリエイターのハローワーク	ビーコムプラス	366.2-ヒコ
大家さんと僕	矢部太郎	726.1-ヤハ



世の中の動きを知るには新書が一番！タイトルを見ただけで読んでみたくになりますね。 →

タイトル	著者	請求記号
AIが人間を殺す日 (集英社新書)	小林雅一	007.1-コハ
公文書問題 日本の「闇」の核心 (集英社新書)	瀬畑源	317.6-セハ
爆買いされる日本の領土 (角川新書)	宮本雅史	334.6-ミヤ
TOEIC亡国論 (集英社新書)	猪浦道夫	830.7-イノ

コラムde11

第81回は笹木が担当です。テーマは「みんなが夢中になった社会現象」。本に関する社会現象は何かあるかと考えて、発行部数300万部の又吉直樹『火花』か、新刊発売のたびに徹夜組が出現する村上春樹か、史上最年少芥川賞作家が誕生した綿矢りさ『蹴りたい背中』・金原ひとみ『蛇にピアス』のW受賞か、『もしドラ』か『セカチュー』か『鉄道員』か…？「みんなが夢中」というとなかなか難しい。『失楽園』を読む小学生はちょっとイヤですからね(笑)。

ところで、私は年齢的に(?)、思い浮かぶのは平成時代の本です。来月のULT読書月間は、平成最後の読書月間ということで、展示のテーマはズバリ“平成”！上で挙げた本も登場するかもしれません。



閑話休題。社会現象、やはりこれだな！と思ったのは『ハリー・ポッター』です。2002年の国内ベストセラーランキングでは、1位から4位までを独占！原作本の売り上げは全世界で4億5000万部。これは「みんなが夢中」と言っていると思います！

日本で第1作『ハリー・ポッターと賢者の石』が発売されたのが1999年。みなさんにとっては生まれた頃からあった本でしょう。私は当時が高校生。やけに流行っている本があるな、と思っていたけれど、何となく読まずにいました。ファンタジーは大好きだったものの、『指輪物語』や『ナルニア国物語』、『ゲド戦記』などを愛読していて、新しい作品にあまりそそられなかったのです。そのため、最初にその世界観に触れたのは、2001年公開の映画を友だちに誘われて観に行ったとき。以降、新作が公開されると劇場に行き、「映画を観てから本を読む」順番で楽しむことができました。高校・大学・社会人と、そのときどきに親しかったひとと一緒にいったり一人で観たり、色々な思い出があって、2011年に『ハリー・ポッターと死の秘宝』を観終えたときは、ストーリーもさることながら、自分自身の“青春”の時間を思っグッとくるものがありました。

次回のお題は「観てから読む本」にします。原作がある映画は、映画を観る前に本を読むほうが好きですが、ハリポタは映画が先でとても楽しめました。そんな作品を紹介してください。